



ご存知ですか？ SDGs

最近、新聞やニュースでよく見たり聞いたりするようになった「SDGs (エスディージーズ)」という言葉。ニュースや仕事、イベントを通じて「SDGs」を知ったという方も多いのではないのでしょうか。そこで町民の皆さまに SDGs を知っていただくために、「SDGs とは何か?」「あなたにもすぐでできる SDGs」などを紹介します。

「SDGs」とは、2015年9月の国連サミットで150を超える加盟国首脳に参加のもと、全会一致で採択された「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称のことです。持続可能な開発とは、将来世代のニーズを損なうことなく、現代世代のニーズを満たす発展を意味します。

SDGsは、先進国・途上国すべての国を対象に、経済・社会・環境の3つの側面のバランスがとれた社会を目指す世界共通の目標として、17の目標とその課題ごとに設定された169のターゲット（達成基準）から構成されます。

それらは、貧困や飢餓から環境問題、経済成長やジェンダーに至る広範囲な課題を網羅しており、豊かさを追求しながら地球環境を守り、そして「誰一人取り残さない」ことを強調し、人々が人間らしく暮らしていくための社会基盤を2030年までに達成することが目標とされています。

ここでは、17の目標を紹介します。



町職員のSDGsへの理解を深めるため、2月4日(火)に「SDGs研究会」を開催しました。講義の中ではグループワークがあり、職員が日頃から行っている行動が、17の目標に当てはまるかなどを話し合いました。



職員研修会の講師、環境省大臣官房環境計画課の岡野隆宏さんから、SDGsについてお話を聞きました。

Q SDGsが始まったきっかけは何？

A 今のままでは、地球環境や人の暮らしというのが持続可能にならないので、私たちの子どもや孫たちに、こういった暮らしを残せないのではないかとという国際的な危機感があり、私たちの将来の世代もいい暮らしを続けていくために、みんなでやっていこうというのがSDGsが生まれた背景になります。

Q SDGsといっても、いったい何をすればいいの？

A 17の目標で書かれていることは、世界的に共通のもので、とても大事なことです。暮らしの中とはつながりにくい話ですが、どうするかというのは一人ひとり、地域地域で考えていくこととされています。

私たちが暮らしの中で、地域の環境や経済、社会のことを気にしながら、行動を少しずつ変えていくことが必要です。例えば、ごみを減らすことに対してどんなことができるのか。まず買い物ではしっかり考えて余計なものを買わない、余計なレジ袋などはもらわないということが出来ます。また、ごみを捨てるのではなくてリサイクルするとか、あるいはごみを出さないために残さず食べるといったことなど、SDGsは誰にでもできる、誰にでも取り組めるものです。それが積み上がって、はじめて世界のSDGsの活動につながる、ということになります。私たち一人ひとり責任はとても大きいし、やらなければいけないことだと考えてもらいたいです。

Q 今すぐできることは？

A 環境だけやると楽しくないというか、苦行になってしまうので、地域のいいこと、元気になることとか、仲間と楽しいこと、例えば、一人でご飯を食べるよりみんなで食べたら楽しいですね。それだけでもSDGsだと思います。環境にもいい、社会にもいい、経済にもいいということは、自分たちが楽しくなるということがとても大事で、それが暮らしやすい町とか、愛着のあるまちづくりにつながっていくと思います。

あなたにもすぐできる SDGs

世界を変えるためにあなたができることはたくさんありますが、その一部をご紹介します。

レベル1 ソファに寝たままできること

- ・電気を節約しよう。電気機器を使ってないときは完全に電源を切ろう。
- ・スマホでSNSをチェックしているとき、気候変動を防止する企業の取り組みを見たら「いいね！」を押すだけでなく、自分から周りの人に伝えよう。

レベル2 家にいてもできること

- ・ドライヤーや乾燥機を使わずに、髪の毛や衣服を乾かそう。衣服を洗うときは、洗濯機の容量をフルにして使おう。
- ・窓やドアの隙間をふさいでエネルギー効率を高めたり、電気機器を省エネ型の効率のいいものに換えよう。
- ・紙やプラスチックをリサイクルしよう。

レベル3 家の外でできること

- ・買い物にはマイバッグを持参しよう。レジ袋の消費を減らすため、いつもマイバッグを持ち歩くようにしよう。
- ・直売所などで「訳あり品」を買ってフードロスを減らそう。大きさや形、色が規格に「合わない」という理由だけで、捨てられてしまうような野菜や果物がたくさんあるよ。

レベル4 職場でできること

- ・通勤は自転車、徒歩または公共交通機関を使おう。マイカーでの移動は人数が集まった時だけにしよう。
- ・労働者の権利を知り、職場で差別があったら声を上げよう。性別や人種、性的指向、社会的背景、身体的能力に関係なく、人はみんな平等だから。

(参考：国際連合広報センター「持続可能な社会のために ナマケモノにもできるアクション・ガイド」)